

令和2年度 自己評価書

学校名	和歌山市立川永小学校
校長氏名	沖平 渉
作成日	令和3年3月12日

1 教育目標

豊かな心と学ぶ意欲をもち、主体的にたくましく生きる子供を育てる

2 本年度の取組についての評価

	確かな学力の向上	豊かな心の育成	健やかな体の育成	地域とともにある学校
指標	<ul style="list-style-type: none"> 県学習到達度調査で基本問題の正答率が県平均を上回る。 わかる授業を実践した(児童・教師90%) 	<ul style="list-style-type: none"> 学校が楽しいと感じる(児童92%) いじめの解消率(100%) 情報モラル授業を実施する 	<ul style="list-style-type: none"> 朝ごはんを食べた(児童100%) 市主催のバスケットボール、陸上大会に参加する 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の教育活動や子供の様子がよく伝わった(保護者85%) 学期に1回以上地域の人材を活用した
重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◎基礎基本の確かな定着 ◎子供主体の授業づくり ○家庭学習の定着 ○読書活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ◎道徳・人権教育の充実 ◎いじめの未然防止、早期発見 ○高学年をリーダーとしたチーム学校づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ◎体力向上の推進 ○基本的生活習慣の確立 ○安全教育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ◎家庭・地域との連携充実 ○幼保小の接続、中学校区における学校間連携の推進 ○地域の人材及び資源の活用
取組の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○「和歌山の授業づくり基礎・基本3か条」を定着させ、自分の考えを書き、そのことを根拠に発言できる授業を行う ○校内研究授業を通して授業改善を図り、教師の授業力を向上させる ○保護者と協力しながら家庭学習の定着を図る ○図書室の開放、読書タイム、読書通帳などを通して読書活動の推進を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳の教科書、「心のとびら」を活用し、「特別の教科道徳」の充実を図る ○日頃からアンテナを高くしていじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、いじめアンケートを実施し実態把握に努める ○情報モラルやネット社会に潜む危険性について学ぶ機会をもつ ○児童会活動の充実を図り、高学年をリーダーとし、子供が考え、実行する取組を行う機会を増やす 	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍の制限された中であるが、授業を中心として児童の体力向上を図る ○「早寝、早起き、朝ごはん」を推奨する ○交通安全教室や避難訓練を計画的に実施し、危機対応能力を養う 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校便り、学級便り、保健便り等を通して学校の情報を定期的に発信するとともに、授業や行事等を積極的に公開する ○地域の方々との交流を通して、人々の生き方について学ぶ ○幼保小の接続及び中学校区での連携を推進する ○授業のゲストティーチャー、読み聞かせボランティア等において地域の人材や資源を活用する
取組の成果と課題(評価結果)	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍で感染防止に十分配慮しながら、例年に比べ制限はあったものの自分の考えを出し合い、話し合い深めていく授業を行った。 ○昨年度県平均より低かった「書くこと」が今年度は4年生で14ポイント、5年生で1ポイント県平均を上回った。授業の中で「書くこと」を地道に続けてきたことがアップにつながった。 ○児童の83.7%が毎日の勉強がわかると回答している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の91.7%が学校は楽しいと回答している。 ○いじめアンケートを実施するとともに、日ごろの見守りといじめ・不登校委員会を定期的に関き、児童の実態把握に努めているのでいじめは100%解消している。 ○情報モラルについての外部講師を招いて啓発の授業を行った。 ○コロナ禍の制限された中であるが、児童会活動を中心とし、高学年をリーダーとし、学校全体のことを考えてみんなが楽しむことのできる取組を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍のため、市バスケットボール大会が中止となった。例年行ってきたバスケットボール、陸上の朝練については、感染防止のため当初から見合わせ、結局年を通して実施できなかった。 ○安全教育のための避難訓練は例年通り実施できた。 ○生活調べの結果を学級懇談会や保健だより等で保護者に知らせるとともに、健康的な生活の必要性を促した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ホームページや学校便り、学級便り、保健便り等を通して学校の情報を定期的に発信できたが、コロナ禍で家庭訪問がなく、授業参観も3学期に1度行い、懇談も開けなかったため、保護者と担任が直接話す機会が少なく、学校の教育活動や子供の様子がよく伝わったと考える保護者が76%(昨年度80%)と減少につながったと思う。 ○幼保小中の連携について、感染防止の観点から、中学校との交流は中止、幼保小についても訪問しての交流は中止としたが、お手紙で交流する取り組みはできた。 ○地域の方との交流も大幅に縮小された。その中でも田植え・稲刈り、町探検、花の植え替え等々、お世話になりました。感謝します。
改善方法	<ul style="list-style-type: none"> ○今年度アップした国語科・算数科を中心として授業の中で「書くこと」を意識的にこれからも取り組んでいく。 ○授業の中で自分の考えを書き、それを出し合い、話し合せて深めていく授業をさらに進めていく。 ○放課後フォローアップをこれからも続けて行う等、基礎基本を大切に、毎日の勉強が分かる子をさらに増やしていく。継続的・計画的に家庭学習・自主学習に取り組むようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日頃からアンテナを高くし、児童の実態を把握し、保護者と連携しながら、いじめの防止、早期発見、早期解決に努める。 ○挨拶運動や交流活動を継続しコミュニケーションを通して児童の心の教育とする。 ○関係機関と連携し、情報モラル教育を今後も行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○諸般の状況を鑑みながら、児童の体力向上に係る取り組みをしていく。 ○保健だよりを活用し、児童の健全育成を図る ○安全教育については、例年通り交通安全教室や避難計画を実施していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○諸般の状況を鑑みながら、幼少・小中の連携をできる範囲で行い、地域や保護者の力を積極的に学校運営に活用できるような取組を工夫する。 ○諸般の状況を鑑みて、参観・懇談の機会を増やし、ホームページや学校だより、学級だより、保健だより等でも引き続き学校の情報を発信していく。

3 その他の課題

- ・学力向上の取組に少しずつ成果が感じられるので、感染症防止に最大限配慮しながら、確かな学力の向上に向けてさらに取り組んでいきたい。
- ・感染症防止の影響で、地域の方々の協力を求める取り組みをほとんど行うことができなかった。諸般の状況を鑑みながら、児童の育ちにつながるよう地域や保護者の力を積極的に活用できるような取り組みを計画していきたい。
- ・校内研修をより一層充実させるとともに、教師の授業改善及び指導力の向上を目指した取組を継続していきたい。